

大阪大学「地域情報活用法」の集中講義を行いました！

平成 28 年 6 月、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター^{※1}の集中講義「地域情報活用法」の講師を CFK 社員 3 名が務めました（4 日間、15 回講義）^{※2}。まち・みちづくりの現場において、一般市民とコミュニケーションを行う際に用いる各種データの検索方法、分析方法、データ表現方法等の基礎を教えるとともに、グループワークを通じて実践的な演習を行いました。

昨年同様、在学生と社会人学生が混じった多様な受講生が集まりました。交通に興味を持つ工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻の学生さん、GIS ソフトを器用に使いこなす文学研究科人文地理学の学生さん、ドイツに 1 年間留学して都市計画を学んできた外国語学部ドイツ語専攻の学生さん、地域医療に興味を持つ保健学専攻の学生さんなど多種多様です。みなさん、熱心に受講されました。

授業を進める際には、昨年度の経験を活かすことができました。特に、立川職員が作成したテキストは充実しており、学生からのリクエストに応じて 100 頁を超える解説編を作成・配布した時には、学生から大喝采でした。また、われわれ建設コンサルタントの仕事についても紹介し、グループワークを通じて社会インフラに携わる仕事の大切さ・面白さを伝えられたと思います。



※1 大阪大学コミュニケーションデザイン・センターは、社会学連携・市民サポートを先頭に立って実践し、プロデュースすることをミッションとした大阪大学の全学共通教育機関です。

※2 本取り組みは、昨年度、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターと建設コンサルタンツ協会近畿支部が連携協定を結び、その一環で行われたもので、今回の取組がその第 2 回目になります。担当教員は、森栗教授、板倉教授、土井特任教授、辻特任助教（以上、大阪大学）で、CFK からは白水、中矢、立川が講師役を勤めました。